

10・9 大学院抗戦

公判闘争勝利に向けて

(2)

(1)はじめに
明大闘争の始は、いまも消えてはいない。三月七日、東京地裁五〇五号室にて、明大大学院事件の第一回公判が開かれた。裁判長、相沢正重。十月九日、リケードは国家権力の黒い手によって破壊され、われわれは大学院で闘い、逮捕され、起訴された。その日、大学当局は、ロックアウト体制をとり全共闘は学園を追われた。

六月二十一日大学立法粉砕をメインスローガンとして全学パレードスト突入以来、全共闘が明大闘争の中で獲得した同結し新しい共同性は、大学当局国家権力一体となった暴力的バリ破壊攻撃に対し、大学院徹底抗戦という凝縮された闘争形態として表出されるをえなかった。全共闘運動の背後に進行する世界史をまさに転換すべきマハト(道義性)をもつて、七名が全存在をかけて実力闘争を闘い抜いたのである。それはまた十、十一月一大政防戦へ向けられた明大共闘からの全国への闘争労働者、学生に実力闘争の開始を告げる熱いアピールでもあった。裁判闘争の中で、われわれは向

工場で資本主義生産様式を極めた、産業社会の帝国主義的再編の下でますます深化、拡大する分業の秩序に見合った屈辱的専門白痴と闘わねばならなかった。それ故に闘争の目的を奪われる「国民」という名をもった巨大な敵を突撃する労働者階級の政治的支配能力の獲得をめざした闘争のさらなる前進をせまらねばならぬ。

アジア太平洋圏の拡がりの中で進行する産業再編成は同時に国内

中を抽象化された個人に再度おとしめんとする、政治頂点からのより一層の階級階級路線の貫徹として闘争として闘い抜かれた。

明大闘争は、大学立法粉砕をスローガンとして闘い、その過程で自らの存在意義に目をむけ、自らを受けている教育そのものを問題にすることにより「結果」から「原因」へと迫る闘争を獲得していった。教育の帝国主義的再編の一環としての近代化自主改革路線に反対する闘争であり、その闘いの質をもつて十、十一月の対中央権力闘争、佐藤栄泰実力阻止闘争に全面的に反対していった。「賃労

国家権力への個人の挑戦



藤田美紀浩

「自分のために」ということが世界史的な拡がりを持つ個人化と社会的規模における帝国主義的再編を進めている。六〇年代における日本資本主義の構造的停滞期の突入とそれを突破してゆくための、工場における社会的人員配列を待機とする第三次台理化の開始は、教育の根本的な再編の契機を生み出した。

大学立法は、その産業再編に適合した、より一層の教育の帝国主義的再編の下で巨大化する資本主義的権力の下への、社会的隷属の鉄鎖を断ち切る闘いの芽前を芽殺し、「競争と分断と対立」の

「自分のために」ということが世界史的な拡がりを持つ個人化と社会的規模における帝国主義的再編を進めている。六〇年代における日本資本主義の構造的停滞期の突入とそれを突破してゆくための、工場における社会的人員配列を待機とする第三次台理化の開始は、教育の根本的な再編の契機を生み出した。

大学立法は、その産業再編に適合した、より一層の教育の帝国主義的再編の下で巨大化する資本主義的権力の下への、社会的隷属の鉄鎖を断ち切る闘いの芽前を芽殺し、「競争と分断と対立」の

「自分のために」ということが世界史的な拡がりを持つ個人化と社会的規模における帝国主義的再編を進めている。六〇年代における日本資本主義の構造的停滞期の突入とそれを突破してゆくための、工場における社会的人員配列を待機とする第三次台理化の開始は、教育の根本的な再編の契機を生み出した。

大学立法は、その産業再編に適合した、より一層の教育の帝国主義的再編の下で巨大化する資本主義的権力の下への、社会的隷属の鉄鎖を断ち切る闘いの芽前を芽殺し、「競争と分断と対立」の

「自分のために」ということが世界史的な拡がりを持つ個人化と社会的規模における帝国主義的再編を進めている。六〇年代における日本資本主義の構造的停滞期の突入とそれを突破してゆくための、工場における社会的人員配列を待機とする第三次台理化の開始は、教育の根本的な再編の契機を生み出した。

大学立法は、その産業再編に適合した、より一層の教育の帝国主義的再編の下で巨大化する資本主義的権力の下への、社会的隷属の鉄鎖を断ち切る闘いの芽前を芽殺し、「競争と分断と対立」の

「自分のために」ということが世界史的な拡がりを持つ個人化と社会的規模における帝国主義的再編を進めている。六〇年代における日本資本主義の構造的停滞期の突入とそれを突破してゆくための、工場における社会的人員配列を待機とする第三次台理化の開始は、教育の根本的な再編の契機を生み出した。

大学立法は、その産業再編に適合した、より一層の教育の帝国主義的再編の下で巨大化する資本主義的権力の下への、社会的隷属の鉄鎖を断ち切る闘いの芽前を芽殺し、「競争と分断と対立」の

「自分のために」ということが世界史的な拡がりを持つ個人化と社会的規模における帝国主義的再編を進めている。六〇年代における日本資本主義の構造的停滞期の突入とそれを突破してゆくための、工場における社会的人員配列を待機とする第三次台理化の開始は、教育の根本的な再編の契機を生み出した。

大学立法は、その産業再編に適合した、より一層の教育の帝国主義的再編の下で巨大化する資本主義的権力の下への、社会的隷属の鉄鎖を断ち切る闘いの芽前を芽殺し、「競争と分断と対立」の

「自分のために」ということが世界史的な拡がりを持つ個人化と社会的規模における帝国主義的再編を進めている。六〇年代における日本資本主義の構造的停滞期の突入とそれを突破してゆくための、工場における社会的人員配列を待機とする第三次台理化の開始は、教育の根本的な再編の契機を生み出した。

大学立法は、その産業再編に適合した、より一層の教育の帝国主義的再編の下で巨大化する資本主義的権力の下への、社会的隷属の鉄鎖を断ち切る闘いの芽前を芽殺し、「競争と分断と対立」の

「自分のために」ということが世界史的な拡がりを持つ個人化と社会的規模における帝国主義的再編を進めている。六〇年代における日本資本主義の構造的停滞期の突入とそれを突破してゆくための、工場における社会的人員配列を待機とする第三次台理化の開始は、教育の根本的な再編の契機を生み出した。

大学立法は、その産業再編に適合した、より一層の教育の帝国主義的再編の下で巨大化する資本主義的権力の下への、社会的隷属の鉄鎖を断ち切る闘いの芽前を芽殺し、「競争と分断と対立」の

「自分のために」ということが世界史的な拡がりを持つ個人化と社会的規模における帝国主義的再編を進めている。六〇年代における日本資本主義の構造的停滞期の突入とそれを突破してゆくための、工場における社会的人員配列を待機とする第三次台理化の開始は、教育の根本的な再編の契機を生み出した。

大学立法は、その産業再編に適合した、より一層の教育の帝国主義的再編の下で巨大化する資本主義的権力の下への、社会的隷属の鉄鎖を断ち切る闘いの芽前を芽殺し、「競争と分断と対立」の

「自分のために」ということが世界史的な拡がりを持つ個人化と社会的規模における帝国主義的再編を進めている。六〇年代における日本資本主義の構造的停滞期の突入とそれを突破してゆくための、工場における社会的人員配列を待機とする第三次台理化の開始は、教育の根本的な再編の契機を生み出した。

大学立法は、その産業再編に適合した、より一層の教育の帝国主義的再編の下で巨大化する資本主義的権力の下への、社会的隷属の鉄鎖を断ち切る闘いの芽前を芽殺し、「競争と分断と対立」の

「自分のために」ということが世界史的な拡がりを持つ個人化と社会的規模における帝国主義的再編を進めている。六〇年代における日本資本主義の構造的停滞期の突入とそれを突破してゆくための、工場における社会的人員配列を待機とする第三次台理化の開始は、教育の根本的な再編の契機を生み出した。

大学立法は、その産業再編に適合した、より一層の教育の帝国主義的再編の下で巨大化する資本主義的権力の下への、社会的隷属の鉄鎖を断ち切る闘いの芽前を芽殺し、「競争と分断と対立」の

「自分のために」ということが世界史的な拡がりを持つ個人化と社会的規模における帝国主義的再編を進めている。六〇年代における日本資本主義の構造的停滞期の突入とそれを突破してゆくための、工場における社会的人員配列を待機とする第三次台理化の開始は、教育の根本的な再編の契機を生み出した。

大学立法は、その産業再編に適合した、より一層の教育の帝国主義的再編の下で巨大化する資本主義的権力の下への、社会的隷属の鉄鎖を断ち切る闘いの芽前を芽殺し、「競争と分断と対立」の

「自分のために」ということが世界史的な拡がりを持つ個人化と社会的規模における帝国主義的再編を進めている。六〇年代における日本資本主義の構造的停滞期の突入とそれを突破してゆくための、工場における社会的人員配列を待機とする第三次台理化の開始は、教育の根本的な再編の契機を生み出した。

大学立法は、その産業再編に適合した、より一層の教育の帝国主義的再編の下で巨大化する資本主義的権力の下への、社会的隷属の鉄鎖を断ち切る闘いの芽前を芽殺し、「競争と分断と対立」の

「自分のために」ということが世界史的な拡がりを持つ個人化と社会的規模における帝国主義的再編を進めている。六〇年代における日本資本主義の構造的停滞期の突入とそれを突破してゆくための、工場における社会的人員配列を待機とする第三次台理化の開始は、教育の根本的な再編の契機を生み出した。

大学立法は、その産業再編に適合した、より一層の教育の帝国主義的再編の下で巨大化する資本主義的権力の下への、社会的隷属の鉄鎖を断ち切る闘いの芽前を芽殺し、「競争と分断と対立」の

(法学部四年)